

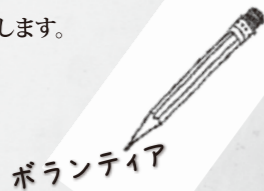
JICA・SVとして

加藤 文子
(元 清教学園教師)

Здравствуй те

Здрастувайце
(ロシア語で「こんにちは」)

2008年まで、清教学園で主に世界史・日本史を教えていた加藤文子と申します。今回のNavilは、高校教師としての職業紹介ではありません。教師については、既に紹介がありましたね。私は清教学園を定年退職し、今は第二の人生が始まっています。今回は、その定年後のボランティアを皆さんにご紹介します。



私は、JICA(独立行政法人・国際協力機構)のSV(シニア海外ボランティア)として、中央アジア・ウズベキスタンの首都にあるタシケント国立法科大学で、「日本の社会制度と法」を指導科目とする社会学講師を2年6ヶ月務め、この1月に帰国しました。具体的な指導科目は、1年生に「世界事情」、2年生に「日本史」・「公民」、3年生に「世界史」、4年生に「現代史」・「消費者法」・「クローズアップ現代」(*脚注1)などです。

ウズベキスタンの大学に日本人の社会学講師が入るのは初めてのことでしたので、学生たちがどんな講義やイベント・企画に興味をもち、それらを自分の専門に生かすことが出来るかに基軸を置きながら、次々と講義を増やしていきました。この他にも、社会学公開講座・シンポジウム、百人一首講座・大会、日本文化紹介セミナーなど、多くのイベントを企画して、日本紹介に務めました。

皆さんは、JICAのボランティア事業をご存知ですか。この事業は開発途上国からの要請に基づき、日本政府のODA(政府開発援助)予算で、JICAが実施する事業です。JICAは、自らの技術・知識・経験を開発途上国の人々のために生かしたいと望む人を募集し、選考を経て派遣します。ボランティアには、青年海外協力隊(JOCV)やシニア海外ボランティア(SV)等があります。ボランティアは、開発途上国の公的機関等に所属し、指導、助言、調査を通じて、開発途上国の人材育成を図り、国造りに協力していきます。

ボランティアに求められる資質とは何でしょうか? JICAの資料には、「①人の役に立ちたいと望み自らの意志で志願する精神、②確固とした目的意識とそれを実現させていく計画性、③困難な状況を克服する意欲と情熱、④社会に溶け込む積極性、⑤円滑に活動及び生活を遂行する協調性、⑥環境への適応力、⑦相手から学び取る謙虚さ、⑧思考の柔軟性等」とあります。これらを総て備えている人は少ないでしょう。私の場合は、「人の役に立ちたい」と思う気持ちが一番、そして「思考の柔軟性」、「社会に溶け込む積極性」が続きました。

人の役に立ちたい!



ここで、JICAの2種類のボランティアを説明します。

青年海外協力隊(JOCV)は、募集年齢は20~39歳まで。募集分野は農林、水産、教育、保健衛生などがあり、2年間のボランティアとして、アジア、アフリカ、

中南米、大洋州、中東の約80ヶ国に派遣されています。一次選考の筆記試験(技術・語学・協力隊員適性テスト)、二次選考の面接試験(個人面接・技術面接)と健康診断を経て、合格者が選出されます。

協力隊員は途上国の厳しい環境の中で、自発的に活動することが求められています。責任感、積極性、忍耐力などと共に、現地の人々と協力しながら活動する協調性も必要です。ウズベキスタンのJOCVには、看護師、助産師、保健師、理学療法士、日本語教師、青少年活動、PCインストラクター、体育、サッカー、空手などの指導者がいました。それぞれの隊員はとも精力的に、現地に溶け込んで活動していました。

シニア海外ボランティア(SV)は、年齢は40~69才まで。職種は、計画行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9部門です。自らの技術・知識・経験に合わせて応募することが出来ます。受け入れ国は約50カ国です。一次選考は書類審査、二次選考は人物面接、技術面接(「日本語教育」を受験する場合)、語学力審査です。どちらの選考にも健康診断が課せられ、長期に渡るボランティアに耐えられるどうかのチェックがあります。

合格率は職種により差がありますが、計画行政、商業・観光、人的資源などは、10倍~20倍の競争率となります。ウズベキスタンのSVの指導科目は、国際経済学、国際金融論、量子ナノ物理学、非線形カオス理論、企業経営、日本の金融システム、情報通信技術、文化資料整理などで、大学での任務が主でした。それぞれ、大学や企業で活躍された経験をもとに指導されています。



私は清教学園高校に勤務していた時、インターアクトクラブの顧問をしていました。このクラブは広い視野を持った国際ボランティアを養成するクラブでもあります。他校との合同行事の中で、自然とボランティア精神が培われていきます。災害時の募金活動、養老院への慰問、障がい児支援のためのフリーマーケットのお手伝い、学校周辺の掃除、プルタブ回収をして車椅子へ、牛乳パックを回収してクリスマスカードに、クラブ員は様々な種類のボランティアを考えました。また、他校との合同イベントの中で仲間も増え、企画力、実行力も養われます。皆さんも是非、インターアクトクラブに目を向けて下さい。インター生は素晴らしい資質を持って社会に出ていきます。顧問の私も、彼らと行動しているうちにボランティアに目覚めました。いつも何か人のために役立ちたいと考えるようになりました。

定年後は自分を試すチャンスです。今まで生徒と共に、優しくもあり、厳しくもある精一杯の教師生活をしてきました。やり残したことはありません。そこで、今後は自分がやってみたいことをしようと思いました。たまたま見たJICA・SVの資料の人的資源の分野に、JICA初めての社会学講師の募集がありました。ウズベキスタン・タシケント国立法科大学における「日本の社会制度と法」の指導科目を見つけたのです。この資料を見た時の胸の高まりは今でも忘れられません。これこそやってみたいことと、その場ですぐ応募を決めました。

私の人生には、こういう出会いがいくつかあります。25年前、二回目の大学入学を決めたのも、新聞の掲載記事でした。既に家庭を持ち子供も2人いましたが、「公立の大学初めての社会人入学」の記事を見てチャレンジし、社会学を学びました。その1年次の時に、「全国大学生弁論大会」に出て最優秀賞をいただきましたが、これも読んでいた新聞記事からの応募でした。そして4年後、二度の大学生活で学んだ知識を、是非教育の場で活かしたいという思いが募って、清教学園に奉職しました。この、清教学園という学び舎で、多くの生徒と共に味わった教師人生は、私にとってかけがえの無い日々となりました。

定年後、JICA・SVの試験を含み、3つの試験にチャレンジしました。残り2つは興味があった消費生活アドバイザーと消費生活専門相談員の資格試験です。JICAのSVのための試験勉強は特にありませんが、消費者関係の試験については、試験対策講座に通い受験生になって勉強しました。これが後で功を奏するとは、この時は全く考えていませんでした。ほぼ同時に受けた3つの試験は、幸いパスしました。ボケ防止も兼ねた消費者関連の勉強は、法律、経済、社会問題、社会保険、福祉など、現実の生活に密着していて本当に面白く、勉強と言うよりも、自分の知識を拡げてくれる良い機会を持ったという感じでした。

中でも一番興味深かったのは消費者試験2次の論文でした。皆さん、大学受験に論文試験がありますが、毎日、新聞を読んでいますか。教師時代、論文指導はいつも新聞を題材にしていたのですが、タシケント国立法科大学でも新聞授業を行いました。新聞は、論理的に簡潔な分かり易い文章を書くために最適な資料です。大切なことは、新聞を読み比べて自分の意見を持つことです。受験勉強で新聞を読む時間がないと思われる人もいるでしょう。高3生になってから読み始めると、

面倒とってしまいます。新聞は中学校の時から、毎日読む習慣をつけるのが一番ラクな方法です。国語や総合学習では新聞授業もありますね。そういう時間を有効に使って、身近なものにしていきましょう。自分の世界がぐんと広がりますよ。考える力が付いてきます。社会に出ても、この知識は至る所で応用が利きます。

JICAのSVになると、約50日間の研修があります。毎日朝から夕方まで、語学、教養一般、ボランティア実習などの講義・演習があります。私はここで、ロシア語に苦しめられました。でも今では、多くの仲間と一緒に皆で励ましあいながら、本当に貴重な体験をしたものと思っています。任国に派遣後も40日間の現地講習が待っています。JICAボランティアは日本の代表です。しっかりとした知識や教養が必要とされます。私も現地の人と接する時、我々の行動は即日本国と結びつくと思ひ、常に気持ちを引き締めていました。

さて、現地ウズベキスタンでの様子は、過日「恩師は今」(*脚注2)で報告していますので、ここでは割愛します。大学では社会学のほかに、上記で述べた消費者関連法の講義をプラスしました。ウズベクの消費者意識は遅れています。今後、ウズベキスタンに消費者関連法の整備が必ずや問われる日がやって来ます。法科大学ではこれらの講義は行われていませんでした。日本の消費者関連法を研究することは、学生たちがグローバル・スタンダードを考える良い機会となるはずですよ。

興味を持って臨んだ資格試験の知識が、まさかウズベキスタンで披露されることになるうとは、受験時には全く考えていませんでした。自分の専門以外にも興味を持つことは、仕事の幅に広がりが出ます。趣味や興味を持った方が、人生が豊かになりますね。

また、ウズベキスタンでは大学生による日本語弁論大会が開催されています。国内の優秀者は中央アジア大会、モスクワ大会へと進みます。彼らの日本語習得能力には、驚くものがありました。多民族国家であるウズベキスタンでは、学生たちの多くが3~4ヶ国語を話します。過去の弁論大会出場経験から、私にも学生の指導をはじめ審査員の役がよく回ってきました。

ウズベキスタンで行った総てが、まさに人生の集大成です。偶然が重なってウズベキスタンに来たと考えていましたが、ウズベキスタンに行くことは始めから決められていて、そのために色々な経験を与えられていたのかなという気がし始めています。

教え子たちは、今、後期の授業に入った所です。ウズベキスタンの最高学府に学んでいる彼らには、ウズベキスタンの未来が懸かっています。国の将来を背負う彼らには、「日本の社会制度と法」と他の先進国の法律を比較研究し、自国に最適の法整備をしていく任務が待っています。現在、10余名の卒業生が日本の大学院の修士課程・博士課程に留学しています。彼らがいつの日かウズベキスタン国を牽引し、国際社会にデヴェューしていく事を、私は心待ちにしています。



私の今後ですが、このウズベキスタンの経験をもとに、さらなるボランティアに向かいたいと思っています。ただ暫くは充電して、自分をもっと鍛えなければと思います。ウズベクの人は決して慌てません。ゆっくり、でも着実に、目的に向かって汗を流します。私も、彼らから多くのものを学んで帰りました。ゆっくりで良いから、いつも自分を鍛えることを忘れずに、広い視野で物事を見つめていきたいと思っています。

清教学園の皆さん、今頑張っていることに無駄なものはないとありません。今皆さんが取り組んでいることは、将来の布石のために、さらに自分の思うような素敵な将来にするため、試練として与えられているのかもしれない。それを乗り越えれば、もっと強い自分が待っています。試練を楽しみながら、果敢に積極的に挑戦して自分を磨き上げていってください。

そして最後に、いつも、「人のために役に立ちたい」という気持ちを忘れないでいてください。日本国内にも、国外にも、あなたの力を必要としている人たちが、成長したあなたを待っていますよ。

若者よ、「公」に目覚めよ!

(脚注1)
以下、「JICAウズベキスタン ニュース」の「If winter comes, can spring be far behind?」に掲載。
<https://docs.google.com/viewer?a=v&pid=gmail&attid=0.3&thid=13a256b59bef19da&mt=application/>

(脚注2)
以下、同窓会ウェブ「恩師は今」に掲載。
http://www3.seikyo.ed.jp/graduate/onshi/dousoukai_onshi.htm